1. 付録

●Aさんインタビュー

筆者：インタビューをしていきたいと思います。まず包んでみてどうでしたか？事前アンケートでは、弓道の道具を包んでいた経験があると回答していただきましたが、その経験と今回の包みを比較していかがでしたか？

A さん：弓道の道具は風呂敷で包むと、かなり小さくなり、持ち運ぶために圧縮するみたいな気持ちがありました。今回はふんわり包みました。

筆者：優しい感じですか？

A さん：収納っていう意味の包むとは全然感覚が違いました。

筆者：包むために大きい布を渡しましたが、正確に必要な布のサイズを測るというよりも、ふんわりできるように大きめに布をカットしましたか？

A さん：日記帳は四角い形をしているので崩れないと考え、布を広げてこの程度あれば十分だろうと思うところで切りました。ぬいぐるみを包むための布はかなり大きめにしました。大切なものほど、大きい布で包みました。

筆者：布で包むことによって中のものが見えなくなりますが、それによって気持ちの変化はありましたか？

A さん：本当に中に入っているのか不安になりました。見えなくなることで、包んだものがそこに存在しているかの確証がなくて、本当にあるのか触って確認していました。友達の誕生日プレゼントなども同じで、私は包むのが好きでプレゼントのラッピングを自分でしますが、一度包むと見えなくなってしまい、中に本当に入っているのか不安になります。それがこのぬいぐるみの場合も同じで、毎晩いなくなったかのような感覚に陥りました。

筆者：逆に包んでいることで守っているような感覚はありましたか？

A さん：その感覚はあると思います。このぬいぐるみは 20 年間家に置いていて、大切すぎて、外の空気に触れることがかなり怖い、連れ出して汚れてしまったらどうしようとか、なくしてしまったらどうしようと思っていたけど、家の空気を包んだまま持ってきたので、バリアのように感じます。

筆者：包まれていることで、家から持ち出しても大丈夫だと思えるということですか？

A さん：今は別に出してもいいかなって思っているかもしれない。

筆者：今回家から連れ出してみて、ぬいぐるみとの関わり方は変化したように感じましたか？

A さん：大事なものを、私の目の届く範囲だけに置いておくことに、良くない気分になっていました。でも少し良いことをしている気分になりました。外の世界を見せてあげられているので。本当に(ぬいぐるみを外に持ち出すことは)かなり抵抗があること。この包む行為は、精神的な安全性がかなり高い気がします。ぬいぐるみが外に出ていることにかなり違和感がありますが、イヤーカフは身に着けるものなので、そこに違和感はなくて、逆に包んであることで、自分が大切にしているという表明になっている気がします。イヤーカフに対して自分が大切だよっていうことを言えた感じがあり、満足しています。

筆者：布を裁断することについて何か感じましたか？

A さん：大きい布を裁断するっていう感覚が日常の中にない行為だったから、新鮮で印象に強く残っています。

筆者：では次に、ぬいぐるみは包んで、どこに置いていましたか？見えるところにありましたか？

A さん：はい、見えるところにありました。諦めきれなくて包んでいるのに、寝室に置いてありました。

筆者：普段と変わらない位置ということですか？

A さん：そうです。抱っこなどをすると布が解けてしまうかもしれないので、そっと枕元に置いていました。イヤーカフと日記帳は包んであることで、他者にとってそれらが私の大事なものかどうかの判別がつかなくなっていると思い、壊されたりしたら嫌なので、絶対家族が触らない、自分の部屋の机の上に置いておいて、触られないようにしていました。包んであると誰のかも、それがどういう思いで包まれているのかも、他人から分からなくなることが不安要素ではありました。

筆者：確かにそうですね。自分からしたら宝物なのに他人から見たら違うというのが、何が入っているか分からない状態を作りますね。

A さん：そうです。ブラックボックスになってしまいます。

筆者：では、最後に包みを開けてみて、どのような感情だったかについてお伺いします。

A さん：入っているということは分かっているはずなのに、とても嬉しい気持ちになりました。

筆者：プレゼントみたいなことですか？

A さん：そうです。予想通りのはずなのにとても新鮮に見えました。

筆者：中のものが見えない期間は数日間でしたが、そのように感じたのですね。

A さん：物が見えていないからこそ、逆に想像していました。「こういうものだった」みたいに。想像すればするほど、そのイメージがはっきりしないものになっていく感じがあり、だから実物を見て想像通りだったと思い、嬉しい感じがありました。でも嬉しい感じがあったけど、これを持ち帰るのは不安だなと思うのは、1 回出してしまっているから、家の安全な空気はもう消え去っているので、それを包み直して持って帰る方が少し不安かも知れないです。

筆者：このイヤーカフは、包んでいる間は身につけられなかったと思いますが、つけたいと思うときはありましたか？

A さん：これは大切なものなので、大事なイベントのときにしか身につけないものだから、それは思いませんでした。

筆者：なるほど。インタビューは以上です。ありがとうございました。

●B さんインタビュー

筆者：インタビューをしていきたいと思います。今回包んでみてどうでしたか？

B さん：今回包んでみて、人形の方は今まで当たり前すぎて意識してこなかった存在だけど、包んでみて主体性を持つようになって、絶えず語りかけている感じがありました。

筆者：自分から包みに対してでしょうか？

B さん：そうです。逆もあります。人形が話しかけているみたいな感じです。

筆者：大きい布をカットして包んでもらいましたが、包むときの布の大きさや、こだわりとかはありましたか？

B さん：大きさにはあまりこだわりはありませんでした。でもハサミでチョキチョキと切って楽しい音が出るのが、少しストレスがやわらいだかもしれません。あといびつな形になっているのが良かったです。

筆者：四角形ではなく、自由に切っていったのですね。人形とか大事な絵が包むと見えなくなってしまうと思いますが、見えなくなることについてはどんな印象を持ちましたか？

B さん：個人的には、見えなくなるというよりは、何か別の形に変わったみたいな感じなの

かもしれません。でもちょっとのぞかせる感じもあったりとかして、完全に見えないってわけじゃなくて、一部は見えなくなって一部が見えるみたいな感じでした。

筆者：なるほど。何かを包むって、物を保護するという意味もありますが、包んだことによって、中のものを守っているという実感はありましたか？

B さん：自分を包むときは結構守られている感覚みたいなのあったかもしれないけど、逆に自分の包まれている写真を見ると全然違うものに変わってしまったようにも思いました。自分が全然何か違う物になった感じがあって、それは面白かったです。

筆者：次の質問ですが、包む前と包んだ後で、包んだものとの関わり合い方で変化した部分はありましたか？

B さん：人形は少し変化ありました。当たり前すぎて逆に無視していたけど、気にするようになりました。

筆者：そうですね。包むという行為を行ってもらいましたが、包むことに対して意識の変化とかありましたか？

B さん：包むときの隙間が少し面白いなという意識が生まれたところがあるかもしれないです。完全に包まれているのではなくて、少しのぞかせているのがいいなと思いました。

筆者：あとこのウサギの人形と絵を包んだものって、今開封するまでどこに置いていましたか？

B さん：基本的に元の場所です。人形は元の場所にずっと置いていたけど、絵は机の上に置いていました。

筆者：ということで、インタビューは以上になります。ありがとうございました。

●Cさんインタビュー

筆者：インタビューを行っていきたいと思います全体的に包むことを行ってみてどうでしたか？

C さん：そうですね。封印みたいな感じはあったかもしれません。特に風呂敷で考えると、風呂敷自体は旅行に行くときに洋服を風呂敷で包むことはするから、持ち運ぶために包むみたいなのはします。でも今回は包んで置いておくって感じだったから、見えないようにして、置いておくっていう封印っぽさがありました。

筆者：なるほど。今回包むための大きい布を 1 枚渡しましたが、包むときに優しくフワッと包むために大きくカットしたとか、包むサイズに合わせてぴったりカットしたみたいな、こだわりとかはありましたか？

C さん：一応風呂敷は未経験ではないから、何となくの肌感はちょっとわかります。あと幼稚園とか中高生のときにお弁当を風呂敷で包んでいました。かなり大きいものにしてしまうと、ぐるぐるぐるぐるして、結んで結んでってしないといけなくなってしまうのが、少し不格好になると思ったから、それにはならないように、なるべく頑張りました。一応もらっていたお弁当箱を包むときはどのくらいの大きさが必要か分かる資料を参考にしながら、測ってみたりしました。

筆者：丁寧に綺麗に包んでくれたのですね。ありがとうございます。何かを包むというのは、中のものが見えなくなるということにもなるのですが、その見えなくなることについてはどう感じましたか？

C さん：缶バッジとキーホルダーは既に時々隠しているときがあったから、いなくなってもそんなにどこかに行っちゃったっていう気はしなかったけど、だるまは毎日見ていたからいないなとは思いました。

筆者：そこまで見たいなとか、そういう不安とかはなかったですか？

C さん：そうですね。早く開けたいみたいなのはなかったです。

筆者：最初に封印っぽさがあると言っていましたが、包んだことで守っているとか、保護しているみたいな感じはありましたか？

C さん：キーホルダーと缶バッジの封印度が高いのは、多若干邪気が入っているからで、大切に包んだぞみたいなのはあったと思います。あとだるまは、立体物だったから、より風呂敷包み感がありました。意味合いが違うかもしれないけど、物を包んだっていう感じがありました。包んでいて楽しかったです。高さがあるから純粋に綺麗に詰めたぞみたいな。

筆者：確かにそれはありますよね。次に包む行為を行った前と後で、その包んだものに対する価値観とか関わり合い方が変化した部分とかありましたか？

C さん：だるまは定位置があるから定位置に戻すと思うけど、この 2 つはどうしよう。元の場所に戻すのか、何かまた考えるのかは、まだ分かりません。

筆者：その包んでいたものが目の見えるところに置かれるかは未定ですね。特に今のところは変わりなくといった感じですかね。

C さん：はい。

筆者：包みとか包むことに対しての意識の変化はありましたか？

C さん：包みに対する意識の変化ですか。実験でものを包んでから、1 回も外出していないので包んだものを何も見ていないので、実感はなかったです。

筆者：最後に、包みを開けたときにどんな感じだったかを聞きたいです。

C さん：開けてみて、わぁって感じでした。嬉しくて、みんなおかえりみたいな感じでした。

筆者：再会できてよかったみたいな感じですか？

C さん：やっぱり好きだなみたいなことを確かめられている感じがありました。

筆者：ということで、以上となります。ありがとうございました。